

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 巻わくわくフレンズ		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員のチームワークの良さ	・一人ひとりの職員が他の職員の負担を和らげようと、考えながら行動することができる ・特に担当を決めずに各職員が周りを見て臨機応変に対応ができる。そのため、児童一人ひとりに対しても様々な視点からの意見を共有できる	・今後もこの方針を変えず、定着させることでさらなる結束を生み、職員の入れ替わりがあった場合でも盤石な体制を確保できる ・さらに話し合いの機会を増やし、情報共有の場を設ける
2	・学習スペース、活動スペースが確保されており、児童が活動しやすく、のびのびと過ごせる	・学習スペースや活動スペース、横になるスペースなどが区切られ構造化されていることで、児童も視覚的に配慮が来ている	・今後はソーシャルスキルトレーニングなど、小集団での活用も考慮し、さらに個別にスペースを区切れるような配慮を工夫したい
3	・児童一人ひとりに合った課題や活動を提供できている、集団活動と個別活動の両立ができている	・月案に内容に沿って、その児童に合わせた活動を提供できている、見通しを持ち一貫性のある活動ができている ・様々なレベルに合わせたプリントを用意している	・今後も児童の伸ばせる部分を共有し、集団活動や個別活動などを考えていく ・プリントや療育グッズを使用している様子から、その児童がレベルアップできるような課題を探していく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との交流機会を増やす	・計画段階にとどまり、実行に移す仕組みが十分でなかった	・長期休みなどは小集団に分け、行ける児童で地域の活動を見に行ったり、見学させてもらう等の計画を考える ・地域の交流などについて、情報を集める
2	・児童発達支援利用の人数が少ないため、児童同士の関わりがまだ持てずにいる	・事業所のサービス内容が十分に伝わっていないことや、情報発信の場が少ない	・保育園や相談支援専門員との繋がりを深め、空き状況や受け入れ態勢などの情報を発信・共有し、利用に繋げていく
3			